

# 領有による公共空間の居場所化に関する研究

公園における青空将棋道場をモデルケースとして

建築計画分野 芝野有祐

## Abstract

今、高齢者が、存在意義と居場所、そして人との繋がりを失ってしまっている。2030年には独居老人世帯が2割にも達する<sup>※1</sup>我が国において、これは早急に解決せねばならない問題である。本研究では、高齢者自らが地域資源を活用して主体的に生み出している場である、「青空将棋道場」を高齢者の居場所のモデルケースとして位置づけ、観察調査及びアンケート、ヒアリング調査を実施し、これを福祉施設と比較することから、領有による公共空間の居場所化の可能性について考察する。調査の結果、青空将棋道場には福祉施設以上に居場所として適している点が多く見られた。高齢者の増加と共に迫る施設の限界という問題の解決となるばかりではなく、新しい高齢者福祉の形となる可能性が十分にあることが分かった。

## 1. 研究の背景と目的

2010年の日本人女性の平均寿命は86.39歳で、世界1位、男性の平均寿命は、79.64歳で、世界で4位と高水準である。更に、65歳以上の高齢者の平均余命に占める自立期間は男性92.0%、女性86.9%<sup>※2</sup>と非常に高い。しかし、日本の都市では、コンビニ以外に外出することがなく、テレビと会話するような生活を送っている独居老人が増加しているという。2010年には、年間3,2000人<sup>※3</sup>もの孤独死者を出していることから、高齢者が充実した生活を送れているとは言いがたい。2030年には独居老人世帯が2割にも達する<sup>※1</sup>我が国において、これは大きな問題である。

長寿化は進んでいるが、高齢者が存在意義と居場所、そして人との繋がりを失ってしまっている。そのような環境は、高齢者の生きがいを失わせ、結果として健康まで失わせる可能性もある。定年を65歳に引き上げたとしても、男性では14年、女性では21年間もの生活が残されている。せつかく手にしたその時間を、生きがいを持って生き活きと暮らすことのできる仕組みを早急に考えなければならない。

老人福祉センターや老人憩の家等の高齢者が一方的にサービスを受ける施設は、十分に高齢者の居場所となり得ているのだろうか。存在意義を見出すことが出来、人との繋がりは作れているのだろうか。本研究では高齢者自らが地域資源・場を活用して主体的に活動している場である、「青空将棋」を高齢者の居場所のモデルケースとして位置づけ、観察調査及びアンケート、ヒアリング調査を実施し、領有による公共空間の居場所化の可能性について考察する。

【補注】<sup>※1</sup>厚生省試算（2005年度）<sup>※2</sup>厚生労働省発表（2008年度）  
<sup>※3</sup>NHKスペシャルより引用（2010年度）

## 2. 調査概要

### 1) 青空将棋の実態把握

大阪市内の公衆トイレのある公園・緑地・緑道・霊園・公衆トイレ周辺・河川敷等220地点を対象とし、ヒアリング調査を行う。

### 2) 青空将棋道場の特性把握

2箇所の組織化された青空将棋道場、1箇所の組織化されていない青空将棋道場に対しては、より詳細な分析を行うため、参加者一人ひとりに対して、アンケート及びヒアリング調査を行う。比較対象として、老人福祉センターにおいても同様の調査を実施した。（表1）

表1. 青空将棋道場の特性把握のための調査対象

調査対象	一日の参加者数	回答者数
長居公園（組織化された青空将棋道場）	45人	23人
明石公園（組織化された青空将棋道場）	34人	15人
入舟公園（組織化されていない青空将棋道場）	17人	9人
阿倍野区老人福祉センター	17人	14人

## 3. 青空将棋の現状

現在の青空将棋道場の平均的な参加者数を図1に示す。大阪市内の公園、緑地、遊歩道の合計35地点で青空将棋が存在した。分布をみると、都市部である環状線内を除き、市内全体に広く分布している。多くの人が散歩に訪れる広

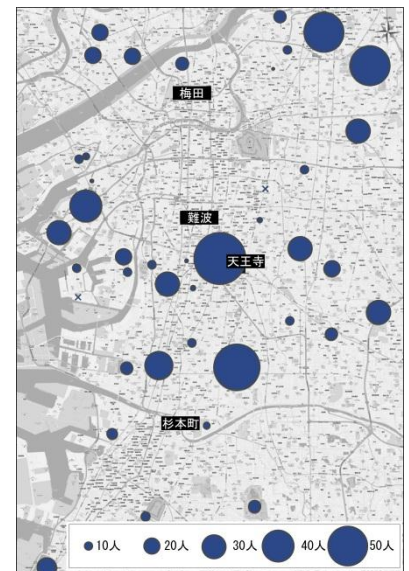


図1. 大阪市内の青空将棋の分布

い公園や幹線道路付近の人通りの多い公園に見られる。

10年前の平均的な参加者数と比較すると、増加した地点が19地点、変化なしが9、減少が7地点となり、大阪市全体では増加傾向にあることが分かる。図2の10年間での参加者数の変化をみると、古い住宅団地のある大正区及び港区の埋立地で減少が激しい。青空将棋の参加者数は、市内の縁辺部で減少し、天王寺公園や鶴見緑地、長居公園といった大規模な公園で増加している。図3の青空将棋の存続期間をみると、大阪市の縁辺部に古くから存在している場が多く、中心部には新しい場が多いことがわかる。

#### 4. 青空将棋の種別

##### ①身内

元々知り合いであった数人で将棋を指している状態。青空将棋道場はこのような状態から出来る。常連性をもって同じ場所で将棋を指すことで人数が増加し、青空将棋道場となる。見知らない人の将棋を、特に声をかけることなく観戦するという行為は、縁台からも続く文化である。次第に観戦者が増加し、②組織化されていない道場、または③組織化された道場となる。広い公園では、一つのまとまりとなることなく複数の道場が混在する状態になる場合もある

##### ②組織化されていない道場

場の「主」が存在しているが、明確に役職を決めていない状態。トラブルが生じないように道場にルールが出来ている。自分たちの居場所を良い環境に保つため、新しくこの場所で指す人にその説明を行う。多くの青空将棋がこれにあたる。

主(リーダー)は棋力の高い人やその場所で長い人、元バーの店長で地域の人からの信頼が厚い人など様々である。三国本町公園、住之江公園、入舟公園など、多くの公園では「賭け事をした者は、以後この公園での将棋を禁止する」というルールがある。

入舟公園や十三公園、天王寺のように共有の備品を持つ道場もある。入舟公園では備品の購入の為、皆で空き缶を集め、その資金を得ている。

この状態は集団としての意識が強く、新しく来た人に対戦相手を紹介するなど、新しく参加する人を受け入れる空気ができている。

##### ③組織化された道場

「主」が「会長」となる。または場を仕切る者が現れ、組織化される。長居公園や友呂岐緑地では、社会人時代に地位のあった人たちである。組織化の利点は、公園管理者と折衝することが出来る。仲間を増やしやすい。行事を行う事ができる。という3点が挙げられる。

#### 5. 大阪の将棋の歴史

##### 1) 縁台将棋の消滅

大阪において、縁台将棋がみられなくなったのは昭和30年(1955年)から昭和40年(1965年)の期間である。夏場は縁台で、冬は室内で、毎日のように将棋を指していた明治から大正生まれの方々が亡くなってしまふと同時に姿を消した。

現在青空将棋で将棋を指している人たちの多くは、子供の頃は親世代以上の人と共に縁台で将棋を指していた。しかし、就職した後は高度経済成長期、バブル期に働き、仕事中心の生活となった。将棋を指している時間などなく、彼らは職場で将棋を指すスタイルが一般的であった。そのため、彼らの子供には将棋文化が継承されることは無かった。娯楽も多様化し、エアコンが普及すると共に縁台そのものの必要性も無くなってしまった。

##### 2) 青空将棋の発生

大阪市内の青空将棋道場は、70年以上前から存在する、千林商店街に隣接する公園を除き、30年前(1980年)頃から見られるようになった。道場の数は増加を続けており、発生してから5年未満という場所も多い。

(図4)子供の頃に縁台将棋を指したり、職場で指してきた人たちが退職を期に青空将棋を始めるためである。

表2の青空将棋を指したことの無い人に対するヒアリングから、高齢者の方が居場所の喪失や、孤独感に悩んでいることが分かる。こういった理由から、再び青空で将棋を指し始める人が多いと考えられる。[1][2]

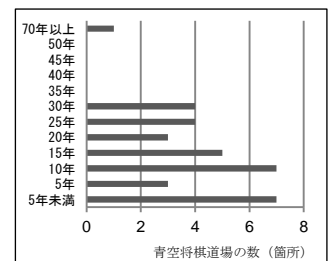


図4. 大阪市内の継続年数ごとの青空将棋数 (箇所)



図5. 大阪市内の青空将棋道場の存続期間

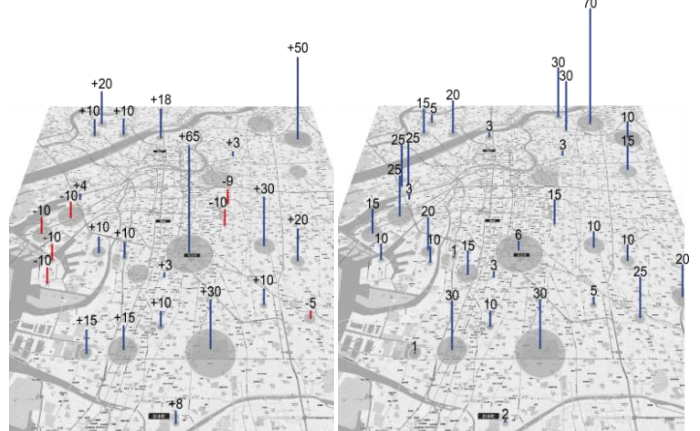


図3. 大阪市内の青空将棋の存続期間

表2. 高齢者の居場所の喪失

[1] 今ここで酒飲んでるけどな、ただ行く場所がないんや。私ら年寄りの居る所がないようになってしまった。(福島区 高見住宅前68歳男性)

[2] 今は、一家に一人は絶対高齢者が居る筈やんか。でもほら、全然外歩いてもおらんやろ。みんな何してるんか知らんけども。公民館を借りて将棋をしよう言うて企画しても、全然集まらへんかった。人の繋がりっていうもんがなくなってしもうてる。世の中どうかしてるわ。(布施出身 70代男性)

## 6. 青空将棋の場

青空将棋を行う絶対条件として、場に日陰がなければならない。特に、南側の建築物、高架、木、巨大なパーゴラによって広範囲に連続して日陰ができる場所に大人数の青空将棋が発生している。

### 1) 好まれる空間

#### ① 囲まれ感の強い場所

青空将棋は高層マンションや工場に囲まれた公園に多く、上部が木々やパーゴラに覆われている、薄暗い場所にて青空将棋が行われている。逆に、土盛りや木があまりない、明るい公園では青空将棋がみられない。

じめじめして薄暗く、一般的にはなかなか気持ちいい空間とは言えないが、将棋を指すには都合が良い。周囲がマンションやコンクリートの壁で囲まれていることで、屋外でも気が散りにくい。また、夏は広範囲が日陰となり、涼しい。子供が寄り付かない空間のため、ボール等が飛んでくる危険性も下がる。

公園のデッドスペースともいえる空間を有効に利用しており、そういった場に常に人が居ることで防犯の効果も期待できる。

#### ② 池の周囲

夏場に涼しいために好まれる。

### 2) 参加者の増加要因

表3の平均的な参加者数の多い地点をみると、人通り

表3 平均的な参加者数の多い地点

地点名	参加者数	備考
天王寺駅南口	65名	駅前
公園	60名	総合公園 (65.7ha)
鶴見緑地	50名	都市公園 (119.6ha)
千林公園	50名	商店街に隣接

りの多い地点に多くの参加者が見られ、駅前の天王寺公園南口が最も多く、散歩に訪れる人の多い長居公園、鶴見緑地に多く集まっている。次いで、千林商店街に隣接する千林公園に多い。

## 7. 場のしつらえ方

青空将棋の場のしつらえ方は指す場所の環境に合わせて、以下の9種類のもがみられた。一覧を表4に示す。最も一般的なものが①のベンチに馬乗りになって指す方法である。最も青空将棋に適していると思われるのは⑥のベンチテーブルで、大勢が集まることが出来、かつ、将棋盤を置くだけで楽な姿勢で指せる。椅子や将棋盤を持ち込む必要がないため、公園管理者とのトラブルも発生しない。しかし、ベンチテーブルは大規模な公園のみでしか見られない。多くの場所で撤去がなされており、公園に物を置く②、③、④、⑤、⑧、⑨の場所では、今後問題になる可能性が高い。

表4 場のしつらえ方

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
公園	ベンチ	ベンチ	ベンチ	ベンチ	ベンチ	ベンチテーブル	なし	なし	なし
自前	なし	椅子(観戦用)	将棋台	机・椅子	将棋台・椅子	なし	シート	机・椅子	縁台
市内の数	16	7	0	1	1	3	0	7	4

## 8. 場の改良

### ① パーゴラの改造

パーゴラを改造して雨よけにする。入舟公園では市との折衝によって設置してもらっている。

### ② テントの設営

冬場には、自分たちで風よけのテントを設置する。石油ストーブを用いて温める。

### ③ タープの設置

自分たちでお金を出しあって購入し、パーゴラに吊るして利用する。中では薪を焚いて温めている。

## 9. 共助

青空将棋道場では、福祉施設のように誰かが部屋を温めてくれたり、お茶などを用意してくれたり、行事の企画や、規則を作ってくれることもない。税金を使うこともできない。そこでは、各々が主体となって、皆のために場を作っている。また、将棋を指さずに、皆の為に場所を作ることにやりがいを感じている人も見られる。

表5 共助の例

(1) 行為
定期的に絵や文字を描き、道場に飾る
朝一で来て、机や椅子を並べ、場所を作る
薪を切って火を用意する
公園管理者との折衝
皆のためにポットのお湯を沸かす
食べ物を分ける(芋を皆に焼くなど)
行事の企画・運営
(2) モノ
テーブルや駒等の備品を作成する
仲間のために酒等を買ってくる
備品を共有する
(3) お金
空き缶を集め、換金
行事や備品等の費用負担
お金を出しあってタープやテントを設置
薪や灯油、蚊取り線香など消耗品の購入

## 10. 参加者の属性

### 1) 同居する家族構成

図5の65歳以上の参加者の同居する家族構成をみると、図4の大阪市全体の世帯状況と比較して、「独居」や「夫婦」の割合が「その他」の家族構成に比べて高くなっている。将棋道場は同居する家族の少なくなってしまう高齢者の拠り所となっていることが分かる。

### 2) 将棋との関わり方

青空将棋道場参加者の約半数が、10歳以下の時に縁台将棋を指している。阿倍野区老人福祉センターでは13人中2人のみであることから、縁台将棋の経験者が、青空将棋道場に参加しやすい傾向があるといえる。

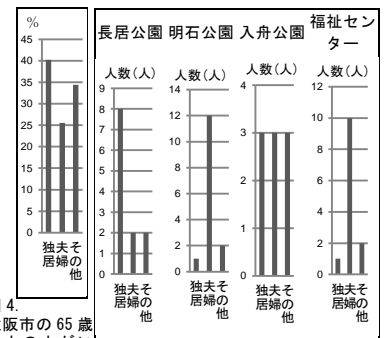


図4 大阪市の65歳以上の人がいる世帯の状況

図5 同居する家族構成

る。10代で仕事を始める為、縁台将棋を指さなくなる人が多く、「指してなかった」が増加するが、その後「職場」などで将棋を再びはじめ、増加を続ける。青空将棋道場では、20代から働きながら参加する人が年齢と共に増加する。

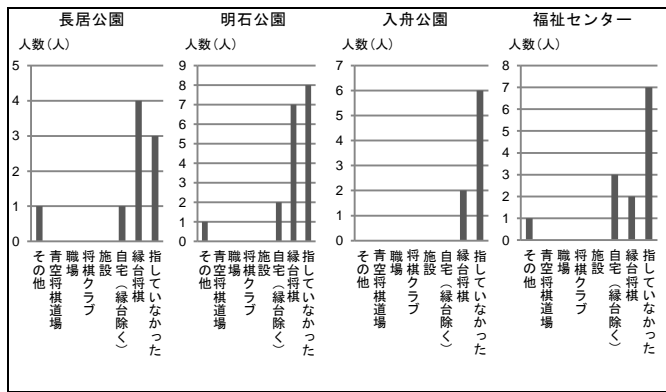


図 6. 現在 60 歳以上の人が 10 歳以下に将棋を指していた場所

### 3) 青空将棋に参加する前に指していた場所

青空将棋道場は、棋力に関わらず、誰でも参加できる。今の将棋道場の前に将棋を指していた場所をみると青空将棋道場に参加する人で将棋クラブに通っていた人は殆ど見られないが、阿倍野区老人福祉センターでは、14名中7名が将棋クラブに通っている。阿倍野区老人福祉センターの将棋クラブで指すには、ある程度の棋力が必要であるといえる。

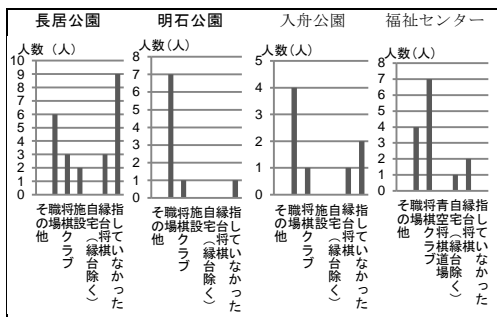


図 7. 現在の道場に通う前の将棋の場所

### 4) 他の対戦、観戦しに行ったことのある将棋道場

長居公園や入舟公園では多くの人が他の青空将棋道場に参加したことがある。明石公園では、周辺に青空将棋道場が存在せず、「将棋クラブ」、「高齢者福祉施設・公民館」のみであった。

青空将棋は、その場所によって全く性格の異なった場になっている。棋力や雰囲気の違いの中からは、自分が居心地の良いと感じる場所を選ぶことができることも青空将棋の特徴である。また、強い人の集まる道場の付近に弱い人の集まる道場が出来るなど、必要に応じて発生する。参加者自らが作る場所ではなく、施設のように行政が生み出す場では、画一的になりやすく、このような多様性のある場を提供することが難しい。

ヒアリングから青空将棋道場の間にはヒエラルキーが存在していることが伺える。[3]

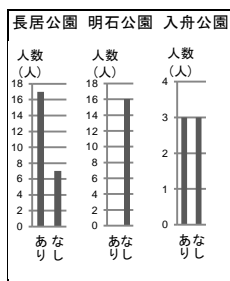


図 8. 他の青空将棋道場に対戦・観戦に行ったことのある人数

表 6. 道場間のヒエラルキー

[3] 磯路中央(公園)はレベル高いよ。プロも指しに来る。ここ(入舟公園)は弱虫の集まりや。(入舟公園)

### 11. 居場所

青空将棋道場と老人福祉センターを比較すると、青空将棋道場の方が参加者にとって「居場所」となっている

いる人が多い。阿倍野区老人福祉センターが居場所であると感じにくい要因として、次の2つの要因が大きい。まず、部屋を他のサークルが利用する時など、いつでも居る事が出来るわけではないという要因、2つ目は、基本的にサービスを受けるのみのため、各々が役割をもっていないという要因である。自分たちでストーブを点け、規則を作っている青空将棋道場とは対照的に、お茶を出してもらい、決められた規則を守るという客としての振る舞いをしなければいけない点が居場所として感じられない要因であると考えられる。

### 12. 参加目的

図3の一番の参加の目的(単一回答)において、長居公園及び明石公園では「交友関係」が最も多く、入舟公園

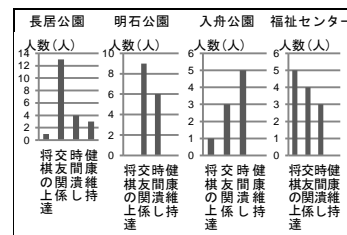


図 9. 一番の参加の目的

では「時間潰し」が最も多くなっている。また、阿倍野区老人福祉センターでは、「将棋の上達」が最も多くなった。

### 13. 滞在時間

秋や冬の天気の良い日に将棋道場にて過ごす時間をみると、長居公園や入舟公園では一時間程度の参加で帰る人もみられる。また、二度に分けて参加しているという人もみられた。更に、夜間のみ参加するという人も存在し、午後8時頃から指し始める人もいた。自由な時間に、気軽に参加できる場であると言える。長居公園や入舟公園では、夏場は街灯の下で朝まで指し続ける人も存在する。12月でも午前三時まで指す人がみられた。

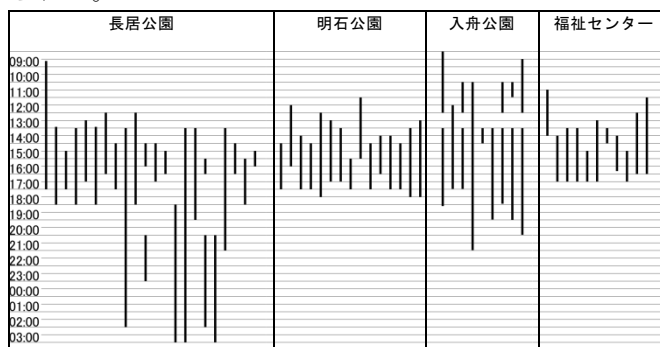


図 10. 将棋道場で過ごしている時間

### 14. 過ごし方

図11の将棋道場での過ごし方をみると、阿倍野区老人福祉センターでは「将棋を指す」がほぼ10割となっているが、長居公園や入舟公園で半数、明石公園では7割程度となっている。長居公園のベンチテーブルの数が不足しており、全員が同時に指すことができないため、観戦者が多くなっている。しかし、そのことが雑談や飲食といった自由な過ごし方をしやすい環境を生み、将棋を指さない人の居場所ともなっている。更に

会員以外の人にも場に入りやすくなっている。将棋を一切指すことなく雑談のみをして帰る人や観戦のみをして帰る人もみられる。

空間の構成も関係しており、長居公園では、将棋道場の中心の木の周りに、明石公園では会長の周りに雑談の場所が出来ている。対して、老人福祉センターでは、そういった場所が存在せず、殆どが将棋という結果になった。(図12)

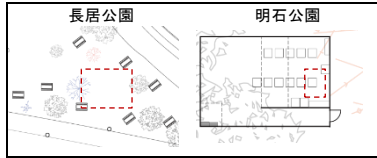


図 12. 雑談場所の位置

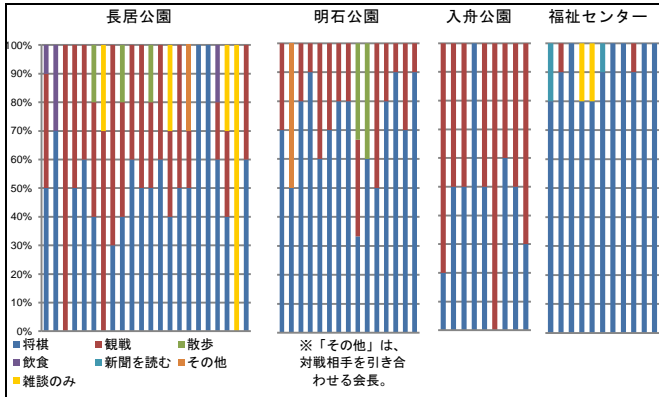


図 11. 将棋道場での一日の過ごし方 (道場での滞在時間を 100%とする)

## 15. 周囲との関わり方

### (1) 初めて見る観戦者への意識

青空将棋は、人の対局を観戦する、周囲の人に見てもらうという文化があり、図11の将棋道場での過ごし方からも分かるように多くの時間を観戦で過ごしている。図13の初めて見る観戦者が自分の対局を見に来た場合、見て欲しいかという質問に対し、青空将棋では、殆どの人が見て欲しいと回答した。これに対し、阿倍野区老人福祉センターでは、「どちらでもない」という回答が大半を占めた。ヒアリングから、青空将棋では観戦者がいることによって士気が増していることがわかる。[4]

阿倍野区老人福祉センターでは、狭く、静かな空間の中で観戦者がいるため、圧迫感を感じていると思われる。

対局中に初見の人が観戦に来た場合、話しかけるかという質問に対し、明石公園や入舟公園では殆どの人

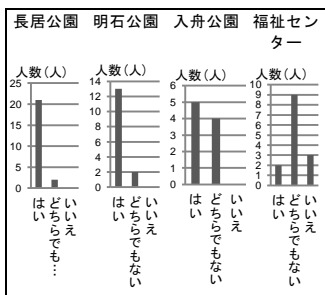


図 13. 初めて見る観戦者が自分の対局を見に来た場合、見て欲しいか

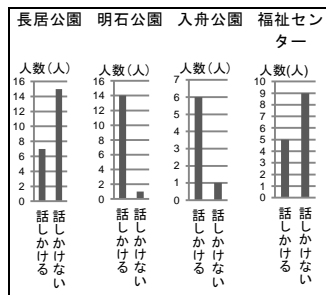


図 14. 初めて見る観戦者が自分の対局を見に来た場合、話しかけるか

が「話しかける」と回答し、長居公園及び阿倍野区老人福祉センターでは「話しかけない」が上回る結果となった。長居公園では、観戦者の人数が余りに膨大なため、話しかけない場合が多いと考えられる。

表 7. 初めて見る観戦者への意識

[4] 見てる人がおったらテンション上がるね。(入舟公園)

## 16. 周囲への配慮

図15の利用時に気をつけていることをみると、長居公園や入舟公園では、他に比べ「場を占有しない」という回答が多くなった。ヒアリングからもそれが分かる。[5] 明石公園では、塀によって空間的に分断されているため、周囲との関係が薄くなっている。「場を占有しない」、「騒ぎ過ぎない」という回答が少なくなった。

高齢者の中には、社会的な疎外感を感じている人が多い。僅かな会話や、同じ空間で過ごすだけでも、その疎外感を和らげられる。

青空将棋は、様々な人が行き交う中で将棋を指す。そのため、高齢者同士以外との関わり

も自然と生まれている。例を表8に示す。多くの人が行き交う長居公園、入舟公園では周囲との関わりが見られる。長居公園では人通りの多い場所に位置し、人が通り抜ける。また、ベンチテーブルを共有している。入舟公園でも、子供の遊び場近くのベンチやパーゴラを子供たちと共有している。明石公園では周囲との関わりが見られない。場を共有することなく、完全に占有しているため、外部との関わりはない。

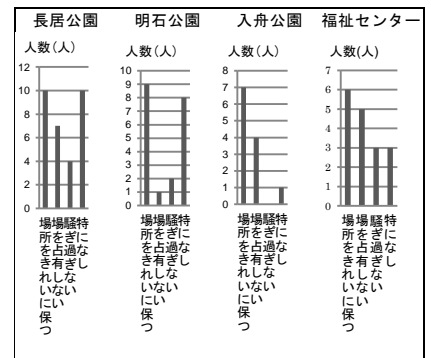


図 15. 将棋道場参加者の気をつけていること

表 8. 周囲との関わり方の例

長居公園
青空カードゲームを楽しむ子供との会話
犬を連れて散歩に来た人との雑談、犬とのふれあい
入院中の会員の家族との会話
他の青空将棋道場に通う人との対局
公園の喫茶店で働く人との雑談
小学生との対局
大学(京大・同志社)の将棋部との対局
ぜんざい(年一回)

入舟公園
子供の野球のボールを拾ってグラウンドに投げ返す
小学生への指導・対局
仕事帰りの社会人との対局

表 9. 周囲への配慮

[5] 年寄りは何の役に立たん。これからがある若いもんを大事にしないと。(入舟公園)

## 17. 組織と体制

長居公園と明石公園では、それぞれ青空将棋道場を組織化し、「長居公園将棋倶楽部」、「翁会」という名称で活動している。組織を作ることによって、規律がしっかりと守られるようになり、公園管理者から認められることができる。

表 10. 組織と体制

	長居公園 長居公園将棋倶楽部	明石公園 翁会	阿倍野区老人福祉 センター
組織図			
役職の 決め方	発言力を持った会員の方が 指名する。	役職は年一回行われる総会の選 挙にて決定する。	老人福祉センター の職員が指名する。
役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>【会長・副会長】</li> <li>・名簿・会員証を作成し、 会員を管理。</li> <li>・公園管理者との折衝</li> <li>【会計】</li> <li>・会費の管理</li> <li>・行事（花見やぜんざいな ど）の費用の管理</li> <li>【その他役員】</li> <li>・将棋倶楽部が所有する盤 （厚紙に升目を印刷した紙 を貼りつけたもの）や駒 を毎日持ち帰る。</li> <li>・行事の企画、運営。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【会長】</li> <li>・基本的に将棋を指さずに一人 でいる会員がいないよう、棋力を考 慮して相手を紹介し、声をかけ る。</li> <li>・規律が守られるよう、場を見張 る。</li> <li>・集会や行事を取り仕切る。</li> <li>・会員の管理。</li> <li>【会計】</li> <li>・会費を管理し、集会で状況を報 告。</li> <li>【会計監査】</li> <li>・会計の承認。</li> <li>【その他役員】</li> <li>・備品を保管する小屋の解錠</li> <li>・行事の企画、運営。</li> <li>・落ち葉掃除</li> <li>・テントの設置、撤去</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【リーダー】</li> <li>・老人福祉センター の伝達ごと等の窓 口となる。</li> </ul>
年会費	300円	5,000円 (珈琲を飲む人は+500円/月)	無料
会員数	250名	100名	10名前後
年間収 入	75,000円+寄付	500,000円以上	-

### 18. 年中行事

組織化された将棋道場では、年中行事を開催する事ができる。表 11 に示す。役員が企画・運営にあたり、毎年試行錯誤を重ねながら毎年開催されている。長居公園では、自分たちだけではなく、周囲の人達も参加できる「ぜんざい」という行事を開催する。入舟公園では特に決まったリーダーが存在しているわけではないが、毎年行事を開催している。組織化されていない道場でも、福祉センターのイベントに参加することで集団意識や目的意識を増している。阿倍野区老人福祉センターでは、特に行事はなく、年に一度、大阪市の開催する大阪市高齢者囲碁将棋大会に参加するのみである。

多くのサークルを抱え、定員も限られた老人福祉センターでは、多くの行事を行うことは不可能である。高齢者自らが主体的に企画・運営することで、多用かつ、きめの細かい、自分たちの求める行事を行うことができる。また、毎年試行錯誤を重ねながら行事を企画・運営すること自体に生きがいを感じている方々もみられる。

### 19. 規律

青空将棋道場にはその場ごとに規則があり、その場所が居心地の良い場所であり続けられるように定められる。組織化された将棋道場では、駐輪場所や道具の持ち帰りの徹底など、特に周囲に迷惑をかけないよう

表 11 年中行事

長居公園	4月 花見大会・春の将棋大会 11月 秋の将棋大会・秋の花見大会 12月 ぜんざい
明石公園	4月 新緑会（将棋大会） 10月 敬老の日（将棋大会） 12月 紅葉会（将棋大会）
入舟公園	1月 新年会 4月 花見大会 7月 大阪市高齢者囲碁将棋大会区予選会 12月 忘年会
福祉センター	7月 大阪市高齢者囲碁将棋大会区予選会

配慮されている。集団として活動することで、お互いに監視しあい、緊張感を持ってマナーを守って場を利用するようになる。

### 20. 総括

将棋の場所が各々の家の前や銭湯などから公園に移動したときには、メリットとデメリットの両面がある。メリットの1つは公園という広い空間を利用することによって、制限なく大勢の人が集まれることである。多い場所では60人を超える場所までである。人数が増えることによって、常に場が存在するようになり、居場所とすることが出来る。また、集団意識が生まれ、共助が実践される。2つ目のメリットは、公園には普段一緒に将棋を指す人以外も集まるため、周囲との関わりが持てるという点である。多くの高齢者が社会からの疎外感に悩むと言われるが、公共空間を利用することによって、社会との関わりを持ち続けることが出来る。

逆に、デメリットは公共の場であるために、私物を置くことができないという点である。調査によって、高齢者が青空将棋の場として利用している空間の多くは、はじめして薄暗く、一般の人にはなかなか利用されない空間であることがわかった。それらの場所を、高齢者の利用に最適化することも検討すべきではないだろうか。

調査結果から、青空将棋は高齢者の居場所となっていることが言える。行為の多様性、広がり、そして様々な行事が開催されるということが人との関係を生んでいる。また、また、各々が役割を持っている。これらのことから、青空将棋を居場所とすることが出来ている。

更に、多様な場の中から、高齢者が自分にあった場を選択できるという点からも、高齢者自身が居場所をつくる事の意義を見いだせる。

青空将棋の文化は近年広がったものであり、これから、縁台将棋のようにより一般的になってゆくであろう。それは今後、公園管理者とのトラブルが増加するという点である。長居公園では、組織化することでマナーを徹底し、リーダーが公園管理者と折衝することで場を得ることができた。このような事例が今後のモデルケースと成りうると思われる。

今後の高齢者福祉に必要なことは、高齢者同士の関係を生み出すことである。高齢者同士の結びつきが強くなれば、自律的な活動が生まれる。多くの高齢者にとって、居場所と出来る空間は公共の空間しかない。実際誰にも使われていない空間も多い。高齢者の自発的な活動を促し、許容してゆくことが必要である。今、そのために公共空間を活用してゆくことを検討すべきではないだろうか。

## 討 議 等

### ◆討議 [ 日野泰雄教授 ]

高齢者コミュニティには様々なものがありますが、その中で、「将棋」を選んだ理由は何なのでしょう。

### ◆回答

「青空将棋道場」は組織にまで発展するほど、共助が非常に進んでいます。ここまで発達した高齢者コミュニティは、公共の空間の中で他に見られません。そこで「青空将棋道場」を高齢者コミュニティのモデルケースと位置づけました。

### ◆討議 [ 日野泰雄教授 ]

直感的に（青空将棋道場には）男性高齢者がかなり多いのではないのでしょうか。もう少し高齢者全体を考え、違う対象でも（女性に対しても）考えたほうがいいのではないかと思います。

おばあちゃんを含め、ゲートボールなどもう少し組織化されたものがあります。今のこれは個人個人が楽しんでいるだけで、青空将棋がより認知されればいいが、なかなかそれ以外の人が入りにくい、あるいは空間占有型になってしまわないか気になります。

### ◆回答

長居公園が、モデルケースとなります。空間であったり、組織の作り方によって解決することが出来ています。

### ◆討議 [ 日野泰雄教授 ]

女性はどのくらい居るのですか。

### ◆回答

大阪市内全体を見ても長居公園の一名のみです。

### ◆討議 [ 日野泰雄教授 ]

もう少し女性も含めたコミュニティを考えたいですね。有難うございました。

### ◆討議 [ 倉方俊輔准教授 ]

すごく面白かったです。すごく大阪らしいし、まさに市大の研究って感じで。詳細にされている。

最後に問題点もあると言っているが、それがこうやっ

たら解決できるとか、あるいはどう誘導すれば、立入禁止にするとかじゃなくって、ここをちょっと、ここだけはルールを守れば、というものが、ここまで分析したのだったら、それが言えそうな気がするのですが。

### ◆回答

組織化された道場では、周りに迷惑をかけないようにとルールが決められています。例えば、長居公園では、道具の持ち帰りだとか、清掃義務というのがあります。組織化をすることによって周りに迷惑をかけないようにできています。互いに監視しあって、周りから見ても、自分たちが邪魔者に見えないように努力しています。

### ◆討議 [ 倉方俊輔准教授 ]

これだけ調べたのなら、領有の仕方であったり、時間の使い方によって、研究したことによって、こういうところに特徴があっていいところであるとか、こういうところが威圧感を与えるという事は、中の人には気づかない。また、外から見ている人は、こういう所にいいところがあるということを感じることができる。研究をするということは、こんないい所があるという相互理解を手助けするものであるべきです。研究することによってそれが言えると思うんです。処方箋として。これでも言えると思うんだけど、それを整理して、学会であったり、地域であったり、東京建築コレクションの修士の論文として、外に発表して欲しい。そうすることで少しでも世の中が良くなるし、これは凄くそういう研究だと思います。

### ◆討議 [ 吉田長裕講師 ]

今回、いろんな将棋の様子を観察して、最後の所でどうして生かしていったらいいのかというところが、時間がなかったので説明が出来なかったの、そのあたりをどう考えているのか。そもそも将棋が出来る空間をサポートする配慮が必要なのか、またはこのような空間を好んでいるので、それ考慮して空間を作るべきなのか、どのような事を考えていますか。

### ◆回答

比較的暗く、じめじめした場所で多く将棋を指しているということが分かりました。明るい所で将棋を指すのが辛いということもあると思うんですけども、そういう空間の活用方法としてその選択肢の1つとして考えられます。それには領有をコントロールする方法が必要で、そのためには「組織化」が有効であると考えています。リーダーが公園管理者に対して責任を持つ

という方法です。つまり、仕組みと空間づくりの両面が必要であると考えています。

◆討議 [ 吉田長裕教授 ]

元々国内には将棋が出来る場所もあるが、それに比べると単に安い、または多くに人と交流できるということがあるが、他にはないのか。なんでわざわざ外に出てきて指しているのか。そこに高齢者の心理であったりだとかが現れているのだと思うのですが。

◆回答

自由に、自分たちにあったように場を作って行けることです。例えば、高齢者福祉施設では、いつでも使えるわけではなくて、他のサークルが利用しないときにしか使えない。行事に関しても、自分たちで色々なことができるが、高齢者福祉施設においては、沢山のサークルを抱えているので年に一回の大会のみです。このように自分たちの過ごしやすい環境ができているということがあります。